

知られざる大崎の歩みを訪ねて。【人物列伝編①】

小誌「新鮮大崎」が伝えたキラ星のOSAKIひと物語

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと大崎」のDNA（原風景）を訪ねる『おさき今昔物語』。

その第三十三話は、郷土の歴史に名を残して輝く人々の記録。そこには、その功績を日本史に刻んだ偉人から、郷土発展の牽引者まで、大崎の文化的土壌の豊かさを証した多くの人々の存在がありました。かつて小誌に登場した大崎の賢人たち。ここにまた、キラ星の人物列伝としてご紹介します。

たくあん祭

副都心として目覚ましい発展を遂げていくその土壌に、多くの歴史ストーリーが存在した私たち
のまち大崎。この発展への歩みの中で、様々な輝きを見せて存在した人々の記録を、今に繋げなが
ら、これからお伝えしていく予定です。

井上勝



▲明治13年、井上勝(右)の主導により貫通した、日本人初の自力建設トンネル



名跡、東海寺大崎墓地に眠る井上勝の墓。新幹線がすぐ横を通る「鉄道記念物」の碑にも守られ、その墓は、日本の鉄道発展に生涯を献げた井上勝の道程を伝えると共に、リニア新幹線が疾走する未来の軌道へと繋がっています。

新橋・横浜間に日本で最初の鉄道を開通させ、開国間もない日本の鉄道創業に尽力した「鉄道の父」井上勝。偉人眠る大崎墓地の地下深くには、奇しくもリニア中央新幹線の開通が決定。井上勝と鉄道と、大崎墓地を結ぶ縁(えにし)の深さが偲べれます。

沢庵宗彭



書や和歌、茶道、医学などにも及ぶ幅広い見識と人徳で人々に慕われた名僧、沢庵宗彭(そうほう)。

知力と高潔の名僧、沢庵和尚が波乱に富んだ人生の晩年を過ごした東海寺。將軍家光に「たくあん漬け」を通して質実の大切さを諭した、ここでの逸話はあまりにも有名です。徳川三代將軍家光が深い信頼を寄せる沢庵のために建立した東海寺。この名刹で、美食を極めた家光に「逸品料理」として褒めた大根の「たくわん漬」の素材な味が、贅を排した暮らしの大切さを家光に教えたことされています。

重宗芳水



大正初期、大崎の急速な工業化がもたらす学校不足の実情を案じ、私財を投じて創設した「芳水小学校」。明電舎初代社長の重宗芳水、たけ夫妻の子供達の将来を思う心が、形となって生き続けています。

ものづくりの街、ふるさと大崎の心をつなぐ学舎、芳水小学校

私財を投じて創設した芳水小学校建学の祖は、明電舎初代社長の重宗芳水氏。つねにまちの発展と共にあった、ものづくり企業と小学校。その強い絆の守護者でした。

松平不昧公



「大崎苑」の中でも特に有名な「独楽庵」(写真上)は千利休によるもの。茶道三昧の晩年を送った不昧公はここ大崎で他界。その後「大崎苑」の在りかも歴史の中に残るのみとなりました。

日本で初めての、茶室のテーマパークであったとされる「大崎苑」。松江藩・松平不昧公が大崎下屋敷に開花させた茶の湯の伝統文化は、大崎の文化的ルーツとして生き続けています。

江戸から明治、大正への時代の流れの中で、大崎の文化発展への礎ともなった偉人たち。大崎ひと物語(人物列伝)の第一編は、大崎に茶苑の一大テーマパーク(大崎苑)を築いた松平不昧公をはじめ、郷土大崎の建学の祖として名高い重宗芳水氏。さらに大崎で生涯を閉じた名僧沢庵や、新幹線が脇を往く大崎墓地に眠る「鉄道の父」井上勝の物語を辿ります。

